

「まちもり」アクションNEWS #01



なぜやるの？

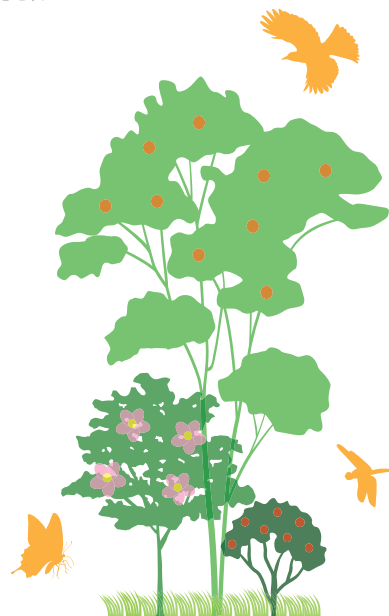
なにをするの？

「まちもり」アクションとは？

「まちもり」ポットをツールとして、旭化成グループ全体の事業所緑地を対象に、生物多様性保全の視点で価値の向上を図るとともに、旭化成グループ従業員の生物多様性保全に対する理解と認識を高める取り組みです。

「まちもり」ポット

旭化成ホームズ（株）が開発した新しい外構アイテムです。都市の住宅地に設置できるコンパクトさを持ちながら、緑の少ない人工的な環境でも生きものたちの利用空間を増やすことができます。



アクションの内容

- ① 「まちもり」ポットを設置
- ② 植えた植物や訪れた動物を観察
- ③ 事業所でのイベントとのコラボ
- ④ 専用HPで活動内容を掲載

旭化成グループの42事業所の緑地で、上記のアクションに取り組みます。取り組みに対して「まちもり」ポイント（MMP）が付与され、各事業所の取り組み内容が可視化されます。

全ての従業員の方が対象となります。皆さんがお勤めの事業所でも「まちもり」ポットを観察して、生きものの記録を報告してください！

「まちもり」とは、旭化成ホームズ（株）が考案した、都市の住宅地における庭づくりのコンセプト。緑が少ない都市の住宅地で「まち（街）」を「もり（森）」で「もる（守る）」。

「まちもり」ポット 季節の見どころ 夏

「まちもり」ポットでは、四季折々に花や果実を楽しめるように植物を組み合わせています。皆さんの事業所ではどんな植物の花が咲き、果実がなっていますか？



リョウブの花
(6～8月)

夏に穂状の白い花を咲かせる。樹皮はまだら模様で特徴的。



ヤブランの花
(8～10月)

夏～秋に紫色の花を咲かせる。ランではなくユリの仲間。



タブノキの果実
(7～8月)

常緑の高木で大木に育つ。夏に黒く熟す果実には、鳥たちが集まる。



ヤブツバキの果実
(8～10月)

夏～秋に固い大きな実ができる。タネを絞ると精油が採れる。

その他、夏に咲く花

- ・ホルトノキ (7～8月)
- ・サカキ (6～7月)
- ・シャシャンボ (5～7月)
- ・アクシバ (6～7月)
- ・マンリョウ (7月)
- ・ヤブコウジ (7～8月)
- ・オオイワカガミ (4～7月)

その他、夏にできる果実

- ・ヒイラギ (6～7月)
- ・ウスノキ (7～9月)

事業所の属する地域により開花・結実の時期が異なる場合があります。植栽した苗木によっては、開花・結実まで生長できていない場合があります。

事業所からの投稿写真



ミニ観察会のあと「まちもり」ポットで集合写真
(旭化成住工滋賀工場)



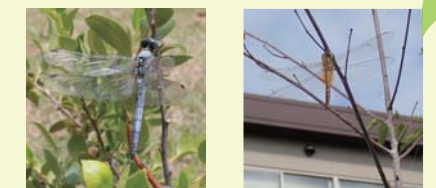
タカノツメの葉にとまったナナホシテントウ
(旭化成住工滋賀工場)



「まちもり」アクションポスター掲示
(和歌山工場)

Column「まちもり」いきものばなし ～トンボのとまり木～

トンボといえば田んぼや池など、水辺を思い浮かべるのではないのでしょうか？ところが、水辺から離れた草木にとまって休んだり、捕らえた小さな虫を食べる姿を見かけることがあります。皆さんの事業所に設置された「まちもり」ポットにも、トンボたちがとまっているかもしれません。ぜひ、探してみてください。



守山製造所の「まちもり」ポットにとまるトンボ



「まちもり」アクションNEWS #02



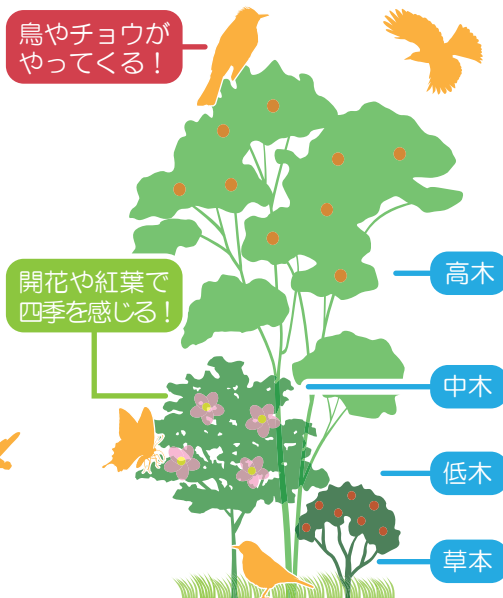
感じよう！
みのりの秋

紅く色づくモミジを訪れた渡り鳥ツグミ。秋、北の大地から日本へと渡り、公園や農地など人の身近な場所で越冬します。
 (旭化成ホームズ住宅総合研究所の外構で撮影)

「まちもり」ポット 3つのエッセンス

「まちもり」アクションでは、旭化成グループの全事業所に「まちもり」ポットの設置を進めています。「まちもり」ポットには、『ネットワーク』『地域の在来種』『階層構造』という生物多様性に関する3つのエッセンスが盛り込まれ、その土地の自然や生態系にあった緑を創り出すことができます。

最初は小さな苗木を植えることから始まります。やがて枝葉を伸ばし、花を咲かせ、実をつけるまでに成長します。時間はかかりますが“自然との共生”に向けた重要な取り組みといえるでしょう。



ネットワーク

- 周りの緑とつながる
- 生き物の移動経路を拡充
 - 動物と出会いの増加

地域の在来種

- 気候・風土に合った植物を選ぶ
- 生き物同士のつながりを守る
 - 地域の原風景や季節感を演出

階層構造

- 複数の階層が空間を多様にする
- 生き物の利用空間を拡充
 - 動物との出会いの増加

「まちもり」とは、旭化成ホームズ(株)が考案した、都市の住宅地における庭づくりのコンセプト。緑が少ない都市の住宅地で「まち(街)」を「もり(森)」で「もる(守る)」。

「まちもり」ポット 季節の見どころ 秋

「まちもり」ポットでは、四季折々に花や果実を楽しめるように植物を組み合わせています。皆さんの事業所ではどんな植物の花が咲き、果実がなっていますか？



ヤブツバキの花 (11月)

秋冬に赤い美しい花を咲かせメジロやヒヨドリが蜜を食べに訪れる。



キチジョウソウの花 (10～11月)

常緑の多年草。秋に薄紫色の花を咲かせた後、赤い果実をつける。



ガマズミの果実 (9～11月)

春に白い小さな花をたくさん咲かせる。秋には赤い果実がつく。



クロガネモチの果実 (10～11月)

秋から冬に赤い果実をたくさんつけ、緑色の葉とのコントラストが美しい。



イロハモミジの紅葉 (10～11月)

秋に赤やオレンジ色に紅葉する。翼をもつタネは回転しながら落下する。



タカノツメの紅葉 (10～11月)

冬芽が鷹の爪に似ることが名前の由来。紅葉後、落葉すると甘い香りがする。

その他、秋に咲く花

ヤブラン、コウヤボウキ、ヒイラギ

その他、秋にできる果実

クヌギ、ミズキ、アセビ、ムクノキ、エノキ、エゴノキ、ヤブツバキ、ヤブラン、ヒサカキ、マンリョウ、スタジイ、アラカシ、ネズミモチ、イズセンリョウ、ハナミョウガ、コジイ、アヘマキ、リョウブ、コバノミツバツツジ、シャシャンボ、ケヤキ、イロハモミジ、ヤマブキ、ヤマグリ、コナラ、ウリカエデ、チゴユリ、ユキグニミツバツツジ、ウスノキ、コウヤボウキ、アカマツ、ネズミサシ、モチノキ、サカキ、ソヨゴ、タカノツメ、アキシバ、ヤブコウジ、ホルトノキ、タイミンタチバナ

その他、秋に紅葉する植物

クヌギ、ミズキ、ガマズミ、ムクノキ、エノキ、アヘマキ、リョウブ、コバノミツバツツジ、ケヤキ、ヤマグリ、コナラ、ウリカエデ、ウスノキ、モチツツジ、アキシバ

事業所の属する地域により開花・結実の時期が異なる場合があります。植栽した苗木によっては、開花・結実まで生長できていない場合があります。

事業所からの投稿写真



アカマツの枝にとまって休むアキアカネ (旭化成住工滋賀工場)



「まちもり」ポットとポスターの設置 (水島製造所B地区)



「月刊まちもり」掲示 (和歌山工場)

Column「まちもり」いきものばなし ～人と緑の深い関係～

人はなぜ傍らに緑を置き、愛でるのでしょうか？ 私たちは、古来より自然の一員として緑と深く関わり、衣食住はもちろん様々な癒しの効用を受けてきました。特に日本人は、花が咲き、実が成ることを、心豊かに感じる可以说とされています。皆さんも「まちもり」ポットで季節の移ろいを感じてみませんか。





「まちもり」アクションNEWS #03



冬を感じる
 生き物たちの気配

「まちもり」は「地域産」にこだわっています

「まちもり」ポットでは、導入する地域に元々ある植物を選ぶことで、地域の生態系のバランスを崩さないようにしています。さらに、**遺伝子攪乱***を防ぐため、同じ地域産地の種苗での植栽を推奨しています。

※ 同じ種類の植物でも、地域が異なると遺伝子も異なる可能性があり、他の地域のもとの混ざることによって地域毎の遺伝的多様性を損なう恐れがあります。



旭化成住工滋賀工場の「まちもり」ポットやピオトープでも、地域産の苗木を植えています。

地域産種苗の普及・啓発を!

「まちもり」アクションでは、地域産種苗を取り扱う生産者の方の圃場を訪問し、育苗の様子を確認しています。地域産種苗は、需要と供給のバランスが難しく、一般的な緑化では採用されにくいのが現状です。この「まちもり」アクションの取り組みにより、生物多様性に配慮した地域産種苗のことを、社内外の多くの人に知ってもらいたいと考えています。



松居隆史さん (松居農園株式会社)
 今年は滋賀県の圃場を訪問して生産者の方からお話を伺いました。(詳しくはイントラネット「まちもり」アクションをチェック!)

「まちもり」ポット 季節の見どころ 冬

「まちもり」ポットでは、四季折々に花や果実を楽しめるように植物を組み合わせています。皆さんの事業所ではどんな植物の花が咲き、果実がなっていますか?



ヤブツバキの花 (12～3月)

秋冬に赤い美しい花を咲かせメジロやヒヨドリが蜜を食べに訪れる。



ヒサカキの果実 (11～12月)

サカキに似る常緑低木で、小さな黒い果実を多数実らせる。



マンリョウの果実 (11～1月)

冬、緑色の葉と赤い果実とが美しく、庭に植えられることも多い。



アカマツの果実 (10～12月)

里山を代表する針葉樹。マツボックリを実らせる。



アオキの果実 (12～6月)

常緑低木で冬～春に赤い果実をつける。



モチノキの果実 (10～1月)

秋冬に熟す赤い果実は美しく、庭木に植えられることも多い。

🌸 その他、冬に咲く花
 ・ヒイラギ (11～12月)

🍊 その他、冬にできる果実
 ・ソヨゴ (10～12月)
 ・タイミンタチバナ (10～12月)
 ・クロガネモチ (10～1月)
 ・キチジョウソウ (11～12月)
 ・ヤブニッケイ (11～12月)
 ・イズセンリョウ (11～12月)
 ・ハナミョウガ (11～12月)
 ・サカキ (11～12月)
 ・ホルトノキ (11～12月)
 ・ヤブラン (11～1月)
 ・ヤブコウジ (11～1月)
 ・カナメモチ (12～1月)

事業所の属する地域により開花・結実の時期が異なる場合があります。植栽した苗木によっては、開花・結実まで生長できていない場合があります。

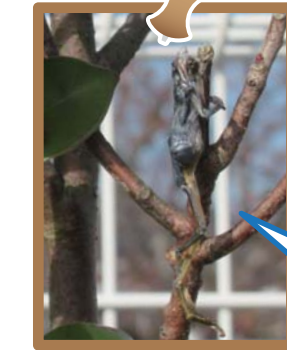
📷 事業所からの投稿写真



第1回「まちもり」アクション 勉強交流会の開催 (旭化成富士支社)



マツボックリの笠に隠れて 朝露をしのぐナナホシテントウ (旭化成住工滋賀工場)



モズのはやにえ (和歌山工場)



モズ
 タカのような鋭いウチバシをもつ小鳥「モズ」が、枝先に獲物(写真はアマガエル)を突き刺したものの。冬の保存食や縄張りの誇示の意味があると考えられています。

Column「まちもり」いきものばなし ～鳥と植物のWin-Winな関係～

植物は自ら動くことができません。そのため、自分の子孫であるタネを動物に運んでもらい、分布拡大を図る植物もいます。なかでも、鳥は移動能力が高く、一部の種類を除いてタネを壊さずに遠くへ運んでくれるありがたい存在。一方、果実は鳥の餌が少ない冬に熟するものが多く、貴重な食べ物です。お庭の隅で、植えた覚えのない植物が生えていけば、それは鳥と植物のWIN-WINな関係の賜物かもしれません!



「まちもり」アクションNEWS #04



命にぎわう

春

コバノミツバツツジが開花する4月頃、オオカマキリが一斉に卵から孵ります

「まちもり」アクション2019年度結果発表!

2019年度までに、27事業所で31の「まちもり」ポットを導入しました。各ポットには地域産の在来植物が5～6種類植えられ、本アクション全体で58種類の植物が植えられたこととなります。

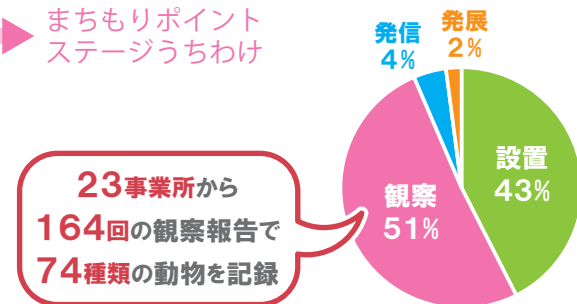
本アクションでは、「設置」「観察」「発信」「発展」の4つの取り組みステージで「まちもりポイント(MMP)」を付与し、進展度合を見える化しています。今年度は、当初の目標400MMPを大きく上回る1,090MMPとなりました(事業所累計)。

2020年度には、全ての事業所で「まちもり」ポット導入を完了する予定です。今後も、生物多様性の視点で事業所の価値の向上を図るとともに、グループ全体の生物多様性保全に対する理解と認識を高めるよう取り組み続けます。

▶▶ 事業所累計のまちもりポイント目標値と実績



▶▶ まちもりポイントステージうちわけ



「まちもり」ポット 季節の見どころ 春

「まちもり」ポットでは、四季折々に花や果実を楽しめるように植物を組み合わせています。皆さんの事業所ではどんな植物の花が咲き、果実がなっていますか?



アセビの花 (3～4月)

常緑のツツジの仲間。早春に白い小さな花をたくさん咲かせる。



エゴノキの花 (5～6月)

春に釣り鐘状の白い花をたくさん咲かせる。



タチツボスミレの花 (3～5月)

ハート形の葉の付け根から薄紫色の花を咲かせる。



ヒサカキの花 (3～4月)

サカキに似る常緑低木。早春に白い小さな花をたくさん咲かせる。



モチツツジの花 (4～6月)

花や葉がベタベタするから「モチツツジ」。春にピンク色の花を咲かせる。



アオキの果実 (12～6月)

秋冬に熟す赤い果実は美しく、庭木に植えられることも多い。

🌸 その他、秋に咲く花

アオキ、アベマキ、アラカシ、イズセンリョウ、イロハモミジ、ウスノキ、ウリカエデ、エノキ、オオイワカガミ、オオタチツボスミレ、カナメモチ、ガマズミ、クヌギ、クロガネモチ、ケヤキ、コナラ、コバノミツバツツジ、シャシャンボ、シュンラン、スタジイ、ソヨゴ、タイミンタチバナ、タカノツメ、タブノキ、チゴユリ、トキワイカリソウ、ネズミサシ、ネズミモチ、ハナミョウガ、ヒサカキ、ヒトリシズカ、ミズキ、ムクノキ、モチノキ、ヤブツバキ、ヤマグリ、ヤマブキ、ユキグニミツバツツジ

🌻 その他、春に若葉が紅葉する植物

カナメモチ、ベニシダ

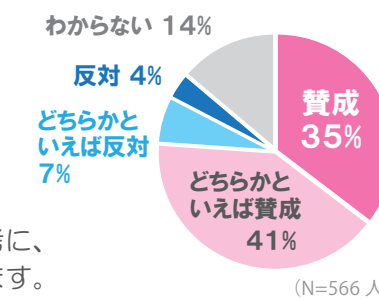
「まちもり」アクション意識調査※結果

事業所内での保全活動に対して、4分の3の方が肯定的に捉えており、生き物や人に良い効果があると考えています。

一方、製品に対する虫の扱いの難しさや、より大規模な取り組みの必要性についてのご意見もありました。

今後も皆様のご意見を参考に、よりよい取り組みにしていきたいと思います。

▶▶ 事業所内での生物多様性の保全活動について



▶▶ 「まちもり」アクションによる効果について

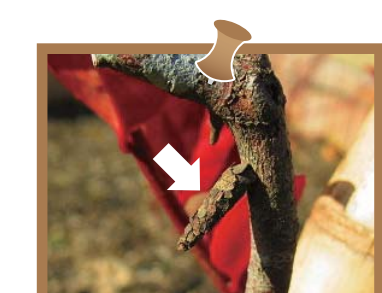


※ 経営層と環境安全系、その他の従業員を対象に2019年9～10月に実施。回答者数566人。

📷 事業所からの投稿写真



ヤブツバキの花 (川崎製造所 千葉工場)



クロツヤミノガと思われるミノムシ (水島製造所 C地区)